

全国の輸血を必要とする患者さんに必要な血液を必要な時に届けることはとても重要です。生命の維持に欠かせない血液を安定的に供給するための施策は血液事業の中心施策のひとつです。

さらに、このような安定供給の観点から、また、患者さんへの血液を介する感染症や副作用等を減らすため、血液製剤の適正な使用が求められています。

血液製剤は病院など医療機関という限られた場所で使われており、また、血液製剤の種類によっては、特定

の疾患を持つ患者さんのみに使用されているものもあります。このようなことから、実際には、献血によってどのように人が人を助けているのかは、一般の人からはなかなか見えにくいものです。

ここに紹介するのは、小児がんと闘った4歳の男の子のお話です。輸血のことを「アンパンマンのエキスだ」と言って、人から血液をもらうことに感謝し、病氣と果敢に闘ったことが綴られています。

血液事業に携わる関係者は幅広く、国、都道府県や市町村、日本赤十字社をはじめ、血液製剤の製造販売業者、製造業者、販売業者、実際に製剤を使用する医療機関、患者の方々、そして、献血に協力して下さる企業やボランティア、国民のみなさん。このように多くの人々の協力により、血液事業は成り立っています。ひとりでも多くの人を救いたい、そんなひとりひとりの思いがこれからの血液事業を発展させていくのです。

アンパンマンのエキス



「この成分献血の成分献血へ移動」

輸血を支えているのは 善意の献血です

過酷な治療を支えた輸血

ある男の子の闘病記

「献血してくれた人たちがどうの気持ちで支えたいと、小児がんを患った我が子のお母さんが日本赤十字社の献血ルームにメッセージを残しました。病氣や事故の治療に使われる血液は、献血によってまかなわれています。献血者が減少する傾向にある年ですが、その重要性がなければ、日本の医療そのものが成り立たなくなってしまうという過言ではありません。」

「献血してくれた人たちがどうの気持ちで支えたいと、小児がんを患った我が子のお母さんが日本赤十字社の献血ルームにメッセージを残しました。病氣や事故の治療に使われる血液は、献血によってまかなわれています。献血者が減少する傾向にある年ですが、その重要性がなければ、日本の医療そのものが成り立たなくなってしまうという過言ではありません。」

保存がきかない血液

「血液は、一度採血された後、すぐに使われる必要があります。そのため、献血した血液は、すぐに使われる必要があります。」

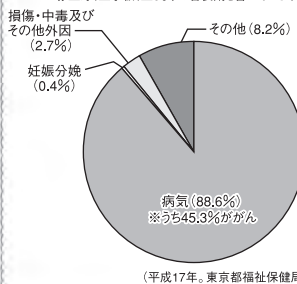
「血液は、一度採血された後、すぐに使われる必要があります。そのため、献血した血液は、すぐに使われる必要があります。」

がん治療にもっとも必要とされる輸血

交通事故など不慮の災害などの時に輸血は必要です。一般にそのイメージが強くありますが、実際血液が使われる場面は意外にも事故は少なく、もっとも輸血が必要な場面は病気の治療です。病気のうち半分ががん治療で、ひょうすけくんがたまたまだった肺がんもその一つでした。

輸血の使用状況

※赤血球、血小板、血しょうの各製剤を含んでいます



献血の仕組みについて



●献血ルームなど
献血ができる場所には、お医者さんや看護師さんの他にも、呼びかけなどをしてくれるボランティアの方がいます。献血には、一度でも輸血を受けた人は献血できない、という決まりがあります。そのため、輸血によって生きる力をもらった人が、ボランティアで献血の仕組みを支えているというわけです。



●日本赤十字社血液センター
献血された血液を患者さんに輸血できるように、血液の安全性を調査し、病院に届けるための準備をしています。また、献血血をしてもった血液を成分ごとに分けて目的にあった輸血用の血液を作ったり、保管したりする大切な役割もあります。



●病院・医療機関
血液センターから血液を受け取る患者さんや、輸血を行います。病院では入院している人の手術用や、交通事故などの緊急用に血液が必要になるため、血液センターと密接に連絡を取り合っています。緊急時に備え、より多くの血液を確保する必要があります。

(平成23年度版「けんけつHOP STEP JUMP(生徒用)」より)